

『臥龍梅』 蔵便り

平成二十三年師走



拝啓 今年もいよいよ押し迫ってまいりましたが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。



今月のご報告することが盛りだくさんです。まず、9月半ばに取りかかった本社の蔵の改修工事が11月半ばに終了いたしました。棟上げ当時の記録を見ますと「大正拾四歳拾月拾九日丙子吉祥 家主 鈴木重太郎」と記されていますので築86年ということになります。ちなみに重太郎というのは私の曾祖父になります。大分古くなっていたのですが取り壊すには忍びなく、祖父以来三代のお付き合いになる地元の鈴木建設さんに相談した

ところ、大正年間の建物の趣を残して見事に修復してくれました。その工事終了間際であわただしいさなかの11月16日から21日にかけてシンガポールへ出張してまいりました。現地の代理店、誠屋さんがイベントを開催するため、他の数社の蔵と一緒に呼びかけに応じたものです。17日の現地時間17時にシンガポールのチャンギ空港に到着して外に出ると、このところ冷え込んでいた日本列島とはうって変わって気温28度の暑さです。ネクタイはおろか上着を着ている人すら見当たりません。さすが赤道直下です。イベントは朝の10時から夜の20時までの開催でしたが、午前中は現地の売り子さんに混じって片言の英語で販売協力し、お昼にはお酒を取扱ってくださっているレストランでご挨拶兼昼食、午後には会場に戻り、夕刻からまたお取り扱い店へご挨拶兼廻りというのが3日間のスケジュールとなりました。当地でもわが臥龍梅の人気は上々でことに純米大吟醸の愛山の売れ行きが好調でした。愛山の現地価格は150シンガポールドル、単純な円貨換算では10,000円程ですが、実勢価格は15,000円くらいだそうです。かなりな高額ですが味に国境はないということでしょうか。Tommyさんも愛山を大変に気に入っていただきました。夕刻、料飲店さんめぐりの車中で、思いがけず携帯に国際電話が入りました。慶応美酒会の幹事さんからで、20日に東京で開かれた第一回美酒早慶戦の結果を伝えるものでした。これは早慶出身蔵元各22社のお酒、計44銘柄をブラインドで利き酒するコンテストでした。結果は団体戦では残念ながら早稲田に優勝をさらわれましたが、個人戦部門ではわが臥龍梅の愛山が優勝、二位は獺祭（早稲田）三位はまんさくの花（慶応）だったとのこと。奇しくも時を同じくして日本とシンガポールの両地で臥龍梅の愛山が高く評価され、誠に嬉しく思いました。



さて今月は大好評の五百万石の純米吟醸袋吊り雫酒に加え、活性にごり酒の360ml壺をご案内いたします。クリスマスシーズンにピッタリの新製品をどちらさまもお見逃しなく。何かと気ぜわしい年の暮れですが、どうぞご自愛のほどを。

平成23年12月吉日

敬具

鈴木 克昌